

孫の手通信



第25号

平成24年7月6日

玉川 孫一郎と歩む会

TEL/FAX: 0475 (47) 3014

<http://magoichiro.blog47.fc2.com/>

はじめに

一宮町長 玉川 孫一郎

私は、このたびの町長選挙において町民の皆さまをはじめ各方面からの力強いご支援と心温まるご厚情を賜り、引き続き二期目の町政運営の重責を担うことになりました。

2,774票の批判票は、私の4年間の町政運営に対する町民のご批判であると厳しく受け止め、もっとよく町民の声に耳を傾け、もっと丁寧な政策を説明し、新しいまちづくりのために全力を尽くす決意です。

6月議会開かれる

6月28日開催された第2回一宮町議会定例会は、補正予算ほか執行部から提案されたすべての議案を可決し、閉会しました。議決された、おもな議案をお知らせいたします。

24年度一般会計（第2次）補正予算

○新庁舎建設事業（4,100万円）

今年3月に現在の役場敷地内に地震にも津波にも強い鉄筋コンクリート造4階建て以上の建物で、高層階に災害対策本部や津波一時（いつとき）避難所の機能を持たせるといふ新庁舎建設設計

画を決定し公表しました。

今年度中に業者を決定し、設計業務に着手する予定です。これに関する設計施工一括契約の設計部分相当額（4,000万円）と地質調査業務委託料（100万円）を計上したものです。

新庁舎の建設については、25年6月に工事に着工し、26年4月には工事完成の予定で進めてまいります。

○地域防災計画策定等業務委託費（1,228.5万円）

6月に千葉県は、最大クラスの津波を予想した津波浸水予想を発表しました。これを受けて町は、地域防災計画を全面的に見直し、新たな津波・洪水ハザードマップを作成し全戸に配布します。

○「がんばろう千葉」有料道路利用観光振興事業（337.1万円）

千葉県では、3・11東日本大震災・福島原発事故の影響により観光客が大幅に減少しています。このため県では観光客の積極的な誘致を図るため、有料道路の料金を千葉県が全額助成し、リピーターの定着を図る事業を打ち出しました。

内容は有料道路の料金は県が全額負担し、通行券の印刷と封筒は市町村が負担します。当町の観光にも大きな被害が生じていることから本事業を導入し、観光客を積極的に誘致します。

一宮町では、東金九十九里有料道路と九十九里有料道路の往復券を各3千枚作成し、宿泊施設、観光施設、観光キャンペーン、イベントなどで配布します。

○観光協会補助金の増額（51.1万円）

例年海開きは、平日に開催され神事のみで観光客の集客がないままであったため、今回観光協会で検討を重ね、今年度の海開きは、7月14日の土曜日に行い、式典終了後宝探しやビーチフラッグのイベントを開催し、観光客の集客を図ります。

○東浪見土地区画整理内の大字変更に伴う電算処理費（18万円）

東浪見土地区画整理事業は、最後の懸案であった保留地の代金が、4月に全額納付され、年内に換地処分や区画整理登記を終える予定です。8月下旬には、区域内の大字が従来の東浪見・一宮から東野（ひがしの）に変更されることから対象となる住民票の住所と戸籍の本籍表示の修正を行います。そのための電算処理費を計上しました。

一宮町保育所整備基金条例の制定

一宮保育所では入所児童が年々増えており、施設は手狭になっています。また災害に対応できるように毎月避難訓練を実施しておりますが、一宮川を遡上してくる大津波に対する不安をぬぐうことはできません。安全な高台に移設することは急務の課題です。そこで保育所の整備資金に充てるため基金条例を制定したものです。

早急に保育所移設検討委員会を立ち上げ、年度内に移設場所を決定し、来年度には用地取得に取り掛かり、一日も早く移設を実現したいと考えています。

監査委員の選任同意

現在、監査委員を務めている滝沢文海（ぶんかい）さんが、24年7月14日に任期が切れることから、再任をお願いし、地方自治法第196条第1項の規定によって議会の同意をいただいたものです。

渚のファーマーズマーケット開催

7月7日（土曜日）午前10時から一宮海岸の旧国民宿舎跡地の広場で渚のファーマーズマーケットが開催されます。

一宮町の明日の農業を担う若者が中心になって町民提案事業として道の駅の実証実験を行います。「海も畑も恋もすぐそば」というキャッチフレーズで新鮮な地元野菜と癒し系カフェ、ショップが多数出店し、フラダンスやタヒチアンダンス、ベリーダンス、恋の歌ライブなど楽しい催しがたくさんあります。ぜひおいでください。

海開きのお知らせ

日時 7月14日（土） 場所 一宮海岸海水浴場
午前10時 開会式
午前11時 宝探し（小学校4年生までが対象）
午後1時 ビーチフラッグ（小学校5・6年生が対象）

（裏面もご覧下さい。）

町長と語る会開催のお知らせ

町では、住民とともに考え、一緒に力を合わせてつくっていく「住民協働のまちづくり」を進めています。

今年もわかりやすい予算書「町では今年こんな仕事をします」を使って今年度の事業を説明するとともに、町民の皆様と直接意見交換を行います。ぜひ会場にお越しください。

日時 7月21日(土) 午後6時半から

会場 一宮町中央公民館

わかりやすい予算書をお持ちください。

平成24年6月10日 読売新聞

道の駅開設さあ実験

第1弾 来月7日 地元産品を販売

一宮町は、地域おこしの研究してきた。住民協働事業の「道の駅」に向けて、町内初産品として実験の委託団体の公募し、同運営委員会へ委託が決定した。道の駅開設に向けた実験を行う。町内の若手農家らでつくる「道の駅」運営委員会(室川典弘会長)が、手始めに地元産品を販売するイベントを来月7日に開く。目玉商品として、メンバーが栽培する特産のマスカロンを販売し、来場者の動向を把握する方針だ。同町は、九十九里浜沿いを走る九十九里道路(波乗り道路)の先頭位置に、首都圏などからの来場客が往来する。九十九里浜沿いでは、山武市連合の「オライはすめまー」の道の駅がないため、3年ほど前から町が道の駅開設を調査、マスカロンを「恋」に設定、「恋す

一宮町



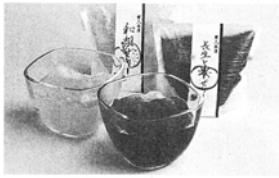
道の駅開設に向けた実験。マスカロンを販売する若手農家のメンバーら(5月27日、一宮町で)

平成24年6月6日 読売新聞

家計の知恵

創業は江戸後期という御菓子司「八木」(千葉県一宮町)が発表した、地元・長生の特産品をふんだんに使った「長生ゼリー」だ。特産品は、トマトと梨の「長生ゼリー」です。「長生ゼリー」は、九十九里の温暖な気候で育てられた「長生ト

特産トマト、梨 ふんだんに



「長生ゼリー」は、トマトと梨の「長生ゼリー」です。「長生ゼリー」は、九十九里の温暖な気候で育てられた「長生ト

平成24年6月26日 朝日新聞

風船爆弾など 町の歴史語る案内板

一宮町教育委員会は、「風船爆弾の打ち上げ基地」など戦前・戦中の町の歴史を伝える案内板をこのほど5カ所に設置した。風船爆弾の打ち上げ基地は、同町一宮の加納藩台跡にあった。太平洋戦争末期の1944年秋から翌45年春まで、和紙を貼り合わせた直径10cmの風船に爆弾を積み、偏西風に任せて米国に向けて飛ばした。全国に基地は他に、茨城県の犬伏(現・北茨城市)と福島県の勿来(なこそ)

案内板を立てた。斎藤は1901(明治34)年に別荘を構え一宮の別荘建設の先駆けとなったという。

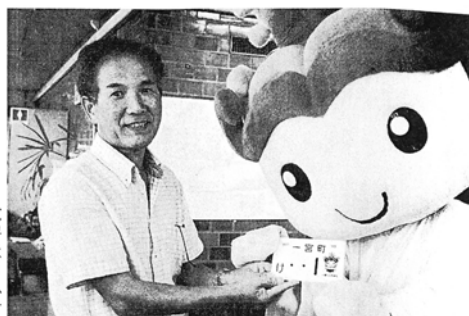


「風船爆弾打ち上げ基地跡」を伝える案内板。一宮町一宮

平成24年7月3日 千葉日報

「一宮いっちゃん」ナンバープレート 交付スタート 「1番」は渡辺さん

一宮町は、町イマージュキャラクター「一宮いっちゃん」のイラスト入りナンバープレート(50cc以下)の交付を開始した。抽選により、同町東海地区に住む渡辺征二さん(67)が「1番」を引き当てた。



「一宮いっちゃん」のイラスト入りナンバープレート「1番」を引き当てた渡辺征二さんは、2日、一宮町役場

プロの指導でサーフィンを体験する児童たち ―一宮町立東浪見小で―



プロが直接指導 サーフイン体験 一宮の小学校 一宮町立東浪見小(児童数25人)で、児童がサーフィンを体験する。プロの指導でサーフィンを体験する児童たち。一宮町立東浪見小(児童数25人)で、児童がサーフィンを体験する。プロの指導でサーフィンを体験する児童たち。

「長生マスカロン」の愛称で知られる温室メロンの出荷が、一宮町と白子町で始まった。6月下旬から7月中旬まで、主にお中元の需要を見込んで約15万個が出荷される。長生農協によると、今年は糖度が高いものや大きめのものが多いという。直売所で2個入り



ながいきメロン甘く大きめ

一宮・白子で出荷始まる

「長生マスカロン」の愛称で知られる温室メロンの出荷が、一宮町と白子町で始まった。6月下旬から7月中旬まで、主にお中元の需要を見込んで約15万個が出荷される。長生農協によると、今年は糖度が高いものや大きめのものが多いという。直売所で2個入り

平成24年6月19日 毎日新聞

平成24年6月26日 千葉日報